

栗駒山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会
第4回委員会 議事概要

1 日時 令和5年2月7日(火) 13:30~16:00

2 場所 盛岡市勤労福祉会館5階大ホール

3 参集者 別添出席者名簿のとおり

4 次第

- (1) 開会
- (2) 開会挨拶
- (3) 委員紹介
- (4) 委員長挨拶
- (5) 議事
 - 1) 第3回検討委員会の指摘事項と対応
 - 2) 栗駒山火山噴火緊急減災対策砂防計画(案)
- (6) 閉会

5. 議事概要

(1) 委員会の成立

本日は委員26名中23名が出席しており、規約第5条に基づき委員会が成立することを報告。

(2) 第3回委員会の指摘事項と対応

- ・ 対策開始のタイミング判断のため、本委員会での関係機関を中心に専門部会を設けることも重要だと思う。
- ・ 試行版のガイドラインでは啓発活動に関する記載が縮小されているが、栗駒山に訪れる方々が多いため、引き続き砂防の分野からも啓発・監視活動を実施していくことは重要な取組だと考える。
- ・ 緊急調査についても UAV 調査など地元の業者と協定締結をしていく点もよろしくお願ひする。UAV 機体も毎年改良されて高性能となっており、栗駒山のように飛行距離が長くなる火山については UAV の活用も重要と考えられる。

(3) 栗駒山火山噴火緊急減災対策砂防計画（案）について

■基本事項編

- ・ 融雪型火山泥流のシミュレーション条件としている積雪深5mほどのデータから、どの程度の確率や可能性で設定しているか。設定条件を記載しておく方が良いのではないか。
→ 事務局：承知した。ハザードマップ検討時に2年超過確率で設定していることから、ご指摘のとおり追記する。

- ・ 既存施設が閉塞するなど流木捕捉機能が低下している場合について、緊急対策としても良いが、除石や流木除去等についても触れておいても良いかと思う。
→ 事務局：表現について工夫したい。

- ・ 降灰後に土石流が発生しやすくなる溪流を降灰厚10cmとしたことについて、ハザードマップ検討時の背景などを踏まえて補足したほうが良いかと思う。
→ 事務局：承知した。

- ・ 降灰があることで、現行ハザードマップと比較して、土砂災害警戒区域や土砂災害特別警戒区域より、降灰後土石流の影響範囲が大きくなるかと思う。住民等への啓発も兼ねて表現できたらと思う。
→ 事務局：ハザードマップとの比較について、現行のハザードマップではマグマ噴火後に伴う降灰後土石流の影響範囲を示していないため、今回シミュレーションを実施し、示している。さらに、土砂災害警戒区域との比較は、重ね合わせ図として比較した結果を示している。結果として、警戒区域に収まることが多いが、一部範囲が広がるケースもある。分かり易く凡例などの表現を見直す。

- ・ 「河道」という用語をどういう意味で使っているか。河道内の最大流動深で溢れない範囲ということか。自然河岸と表現することも可能かと思う。用語について誤解する人もいるので、使い慣れた言葉などに修正した方が良いのではないか。
→ 事務局：ご指摘の件について修正する。

■計画編

- ・ 携帯電話の通話可能エリアについて地図上でどこが通じてどこが不感地帯なのか分かりにくいいため、表現を工夫してほしい
→事務局：承知した。注釈を加える。

- ・ 緊急的なハード対策で堰堤の除石は平常時には特段行わない方針でよいか。
→ 事務局：該当区間は治山堰堤が多く、土石流対応施設ではないことから除石は行わない。砂防堰堤のある部分は除石を行う方針としている。

- ・ 緊急対策のアクセス路の造成や作業ヤードは現地条件を見ながら記載しているのか。
→ 事務局：現地を概査してアクセス路や作業ヤード候補地を記載した。

- ・ 岩手県の新たな土砂災害警戒区域（土石流）は栗駒山周辺に存在するか。
→ 事務局：マグマ噴火の 10cm の範囲で該当する溪流は無いことを確認している。

- ・ 平常時準備事項で啓発などは平常時から行っていくことが重要。岩手山はイーハトーブ火山局が会館以後、来場が 20 万人に達したそうである。栗駒山もジオパークなどの啓発に使える施設があるので活用していくことが望ましい。また、インターネットの活用なども重要である。一関市は関心が高い印象があるので、砂防ボランティアなどによる出前講座など防災学習についても地道に行っていくことが大事だと感じている。

- ・ 平常時準備は、火山との共生、一関市は過去に水害もあり防災に関心が高いことなどもあるので、今回の計画策定と併せて土砂災害も含めて火山との共生について広報するとよい。
→ 事務局：様々な機関と連携して住民の防災意識を高めるなど、連携の意識をもって準備を進めていきたい。

- ・ 栗駒山や 3 県にまたがる活火山である。今回計画を策定することになるが、この成案で終わりではなく、この成案から取組みを始めていただきたい。

以 上